

令和8年度SDGs未来都市等成果報告会（8.25開催）

富士山ジビエセンター「DEAR DEER」の挑戦

有害鳥獣を「マイナス」から「プラス」の価値へ転換する持続可能な地域モデル

山梨県富士吉田市（2024年度SDGs未来都市選定）



● 地域の特徴（取組を発想した背景）

背景と地域課題

富士山の恵み豊かな環境を守りつつ、食害問題とどのように向き合うか

富士吉田市は富士山麓に位置し、美しい自然と豊富な観光資源に恵まれた街です。しかし近年、ニホンシカやイノシシ等による農林業被害や生態系への食害が深刻な課題となっていました。



有害鳥獣問題：

単なる「駆除・廃棄」に留まり、コストと労力が課題に。



命の尊厳：

駆除された命を無駄にせず、地域の貴重な資源へ転換。

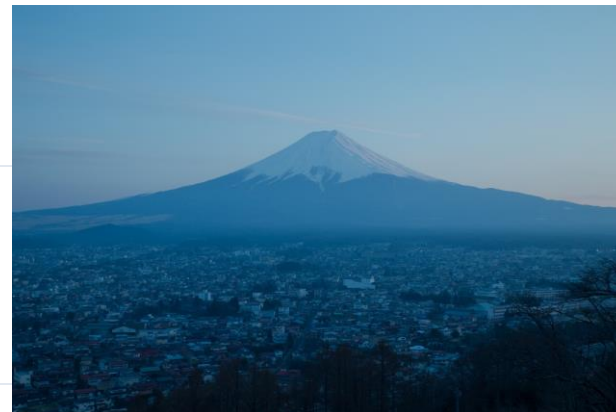


持続可能な解決策：

環境保護と経済循環を両立させる新たな仕組みが必要。



鹿による食害



●取組の内容と成果

取組概要と拠点施設

人里離れた処理場から「人が集まるオープンなジビエ拠点」へ



従来、ジビエ解体施設は山間部に置かれることが一般的でした。DEAR DEERは敢えて年間250万人が訪れる「道の駅富士吉田」敷地内に整備しました。

公設民営（指定管理：(株)ふじよしだまちづくり公社）として運営され、解体・加工のみならず、精肉・加工品の直販、飲食、食育学習までを一体的に提供しています。



商品開発・販売

高付加価値化と直販ショップ

精肉の販売にとどまらず、高品質なソーセージやハムなどの加工商品を開発。併設ショップでは「鹿肉ハンバーガー」などを提供し、観光客が気軽に味わえるジビエ文化を創出しています。

教育・体験プログラム

食育と命の大切さを学ぶ場

次世代を担う子どもたちが肉の加工や命の循環を学ぶワークショップを開催。地域課題と食育を融合させた先進的な教育コンテンツとして機能しています。

● 取組の内容と成果

創出された6つの地域効果

行政コスト・地域課題を新たな価値と成長産業へと転換



① 鳥獣被害対策

駆除で終わらず資源化。捕獲から処理までの迅速な動線を確立。



② 地域内経済循環

捕獲報酬・個体の買取り・製品販売により地域内でお金が回る仕組みを構築。



③ 新たなブランド化

「富士山ジビエ」として高品質・安全な富士吉田ならではの特産品へ。



④ 関係人口・観光波及

道の駅での体験消費やグルメを通じて来訪者との新たな接点を創出。



⑤ 人材育成・雇用創出

買取りのインセンティブによる猟友会の負担軽減とモチベーションアップ。若手ハンターの育成と高齢化問題を解決へ。施設運営による新たな雇用創出。



⑥ 課題の価値転換

処分費用という行政コストを、魅力的な産業・教育資源へと逆転。

● 困難やつまずきなど苦労したこと及びそれをどのように克服したか

・立地とイメージ改善：

観光地・道の駅への建設に対する周辺理解を得るため、高度な臭気対策と透明性の高い衛生管理を徹底。

・受容性の醸成：

食育イベントや美味しく食べられるジビエメニューの開発により「ネガティブな駆除」から「ポジティブな食文化」へと意識を改革。

● 推進体制（ヒト・カネ・モノ）の整備方法

・ヒト：

行政（ふるさと寄附推進課）、猟友会、
(株)ふじよしだまちづくり公社が連携。

・カネ：

ふるさと納税クラウドファンディング＋
鳥獣被害防止総合対策事業補助金を有効活用。

・モノ：

道の駅富士吉田の集客力を最大活用した公設民営施設。



富士山を食害から守れく第2弾＞ジビエ加工センターの建設に着手～ジビエをフックに新たな経済循環や地域活性化につなげたい～

自然環境保護 山梨県富士吉田市

現在の寄付額 **444,569,000**円
目標金額 220,000,000円

達成!

寄付者 **28,694**人 受付終了
募集期間：2023/07/28(金)10:00～2023/10/27(金)09:59

このプロジェクトは受付を終了しました

● 庁内調整・外部調整の工夫

・プロジェクトチームによる事業推進：

人事異動によるプロジェクト停滞を防ぐため、設計から完成まで責任をもって事業に携わるようプロジェクトチームを結成。
また、最重要ステークホルダーである猟友会メンバーも設計の段階からプロジェクトチームに招聘。

● SDGsの視点と政策をどのように結びつけたか

SDGsの「環境」「経済」「社会」の3つの側面を統合した事業として推進

環境

- ・ネイチャーポジティブの推進
- ・鳥獣被害の防止
- ・野生鳥獣を「マイナス」の存在から「プラス」の有効な資源としてとらえる

経済

- ・“富士山の恵み”として商品化
- ・新たな地場産品の創出
- ・道の駅での新たな特産品として販売
- ・ふるさと納税の返礼品
- ・雇用創出

社会

- ・道の駅富士吉田エリアにおける新たなコンテンツ
- ・子どもたちへの施設見学の提供
- ・教育施設としての機能
- ・観光やふるさと納税を通じた関係人口の創出

● SDGsの取組を推進して良かったこと・周囲の反応など

- ・有害鳥獣を「マイナス」から「プラス」の価値へ転換する取組は、地域内外から高い関心を集め、メディアで紹介される機会が増加した。
- ・行政視察や他自治体からの問い合わせも増え、本市の取組が地域課題解決のモデルとして評価されている。

● 今後の展望・他地域への展開



三側面の統合（環境・経済・社会）：

森林生態系の保全（環境）、ジビエ製品化による収益化（経済）、食育・次世代育成（社会）を一体不可分で達成。



誰一人取り残さない地域づくり：

高齢化する狩猟者の技術継承や若手ハンターの育成。地域での新規就労機会の確保、子どもたちへの生きた学びの提供を実現。



他地域への展開と未来へのモデル：

「道の駅型オープンジビエ施設」×「クラファン手法」のパッケージは、全国の有害鳥獣問題に悩む自治体の水平展開モデル。